

手紙

この手紙は、私が人権・同和教育の講演をしたときに、会場に来てくれたある大学生からもらった手紙の一部です。

みなさんにも、ぜひ読んでもらいたい手紙です。

先日の「講演ありがとうございました」。

急に手紙が届いたので驚かれたかもしれませんが、私は先生の講演を聴きながら、自分の学時代のことを、とても懐かしく思い出しました。それと同時に、今の私の思いをどうしても伝えたいと思い、手紙を出しました。

私は、中学三年生のときに書いた「あゆみ」を今でも大切に持っています。ある日の時間を見てみると、「人の値うち」と学習予定に書いてありました。

私は、この日は今でもはっきり覚えていています。参観授業で「人の値うち」という詩を読んで同和問題について学習しました。

でも、授業後に学級のみなが話題にしていたことは、部落差別をなくすということよりも『どこに被差別部落があるのか』ということでした。学級担任の先生は熱心に授業をされ、学級の中からも、とてもいい意見が出ていたの……。

級友たちは、何を学んだのでしょうか。部落差別がなくならないのは、被差別部落があるからではなく、差別する人がいるからなのに。私は腹立たしさを覚えました。

その後、学級担任の先生と保護者との、同和問題をはじめとする様々な人権問題についての話合いがあり、母も参加しました。参加していたある保護者は、「それは言っても、自分の子どもが被差別部落の人と結婚するというのは、考えてしまいますよねえ」ということを言ったそうです。そのような意見に、母はとてもショックを受けて帰ってきました。

私の父は無職でした。それに字を書くこともあまりできませんでした。そんな父に対して、「お父さんが、仕事に就けんのよ、怠けとるけんよー」「字をまともに書けんのよ、勉強せんかったけんよー」と父をののしり、責めたてたこともありました。

しかし、同和問題やいろいろな人権問題について深く勉強していくことで、父が字をあまり書けなかったことや仕事に就けなかったのは、父の責任ではなく、部落差別によって学校へもまともに行けず、会社にも雇ってもらえなかったからだと言っことを知りました。でも、それは、父が病気で亡くなったあとのことでした。

私は、今まで父をのしり、さげすんできたことを、心から悔やみました。父は、差別の厳しさに耐えながら、私を懸命に育ててくれたのです。

私は中学一年生のとき、自分が被差別部落の生まれだと、初めて知りました。そのときは驚きと動揺が隠せませんでした。でも、中学校の先生たちは、いつも私を励まし、温かい声をかけてくださり、心の支えになっていました。先日の講演を聴き、先生が、勤められている中学校で、差別を許さず、差別をなくしていく生徒を、熱意をもって育てておられることに、強く心を動かされました。私もこれから、同和問題やいろいろな人権問題について、学習を深めていきたいと思えます。

私には夢があります。それは教壇に立つことです。私は教師になって、私と同じような苦しみを味わつことのない生徒を育てたいのです。また、子どもたちといっしょに、いじめや差別を許さない社会をつくってきたいのです。

一人が好き勝手なことを書きましたが、どうしても先生に聞いていただきたくて、ペンを執りました。

これからもお体に気を付けて、頑張ってください。

手 紙

教材の見方

この教材は、前段において筆者が受けた人権・同和教育の授業を振り返り、後段においては筆者自身の父親への態度を振り返るとともに、自分のこれからの生き方や思いについて書かれた手紙である。

「人の値うち」を学習後に生徒たちの間で、「どこに被差別部落があるのか」ということが話題になったことに、筆者は腹立たしさを覚えたり、学級担任と保護者との話合いの中で「そうは言っても、自分の子どもが被差別部落の人と結婚するというのは、考えてしまいますよねえ」という発言があったことに対して、母親はとてもショックを受けたりしている。こうした、同和問題に関する周囲の意識や差別的な発言と出会った時の母子の気持ちや意識を丁寧に扱い、共感させたい。

父親に対して筆者は冷たい接し方をしていたが、同和問題を学習していくことで、父親の受けた差別の厳しさや思いを筆者が理解しようとするようになる。父子の思いだけでなく、学ぶことの大切さにも触れたい。

さらに、「私は教師になって、私と同じような苦しみを味わうことのない生徒を育てたいのです。また、子どもたちといっしょに、いじめや差別を許さない社会をつくっていききたいのです」ということばに筆者の思いや決意が込められている。生徒においても、自分たち一人ひとりがいじめや差別を許さない社会をつくるという自覚をもたせたい。

こうした筆者や両親の思いや願いを共感的に理解するとともに、この教材を手がかりとして、同和問題をはじめとする様々な人権問題の学習に真剣に取り組む態度を育てていきたい。

指導のねらい

手紙を書いた筆者の心情に深くせまり、同和問題をはじめとする様々な人権問題の学習に真剣に取り組む態度を育てるとともに、差別を許さない心を育てる。

留意事項

「どこに被差別部落があるのか」という話題について、差別があるのは被差別部落があるからではなく、差別する人がいるからであることを押さえる。

父親の生き方や思いにふれて差別の厳しさについて理解させるとともに、筆者の父親に対する思いの変化について深く考えさせたい。

筆者が伝えたかった思いや願いに共感させつつ考えさせたい。

この後、同和問題学習をはじめとする様々な人権学習に真剣に取り組み、差別をなくす行動へとつなげたい。